

リビングリテラシー向上プログラム推進事業

【現状と課題】

- ◆低い耐震化率
耐震診断や耐震改修の敬遠による耐震化の低迷、適切な維持管理の欠如による雨漏りの発生や建物劣化の進行等、住まいと向き合う基礎知識が不足
- ◆停滞する自治会、町会活動
自治会・管理組合等への無関心による地域活動の停滞、騒音・ペット・ゴミ屋敷問題等居住マナーの欠落による住環境の悪化など、コミュニティ、共同で住生活を営む意識が不足
- ◆伸び悩む中古住宅流通
「中古住宅より新築住宅」「借家より持ち家」等の偏向した意識が中古住宅流通の障害となり空き家発生を助長させるなど、ライフスタイルに応じ住宅や住まい方を選択する能力が不足
- ◆求められる住教育の充実
学校の技術家庭科における「衣食住」の学習項目のうち、本県の地域特性を反映した適切な教材がない、教員の住教育経験が少ない、等の理由により、住生活に関する子どもたちの学習は積極的に実施されていない状況

「リビングリテラシー（※）」が未成熟
※住宅や住まい方に関する基礎的な知識や判断力



【解決の方向性】

- 県民一人ひとりが、将来にわたり、より良い住環境で暮らしていこうとする意識改革、環境形成が必要
- ▶ より豊かな住生活を実現しようという県民の意識醸成
 - ▶ 住生活の情報提供等による県民のリビングリテラシー向上
 - ▶ 住生活全体を学習環境として子どもの考える力や生きる力を育成する学習プログラムの構築
 - ▶ 教育委員会と県土整備部との連携による住教育の実施

住宅施策として住教育を支援



【事業内容】

～ 巣立つ前に身につける実践版の住教育 ～

(実施期間：平成29～30年度)

防災や安全、健康等の基礎的な知識を身につけることが必要な小・中学生や、親元から独立した後の住生活において自らの判断が必要となる高校生を対象としてリビングリテラシーを向上させる取組みを実施し、次世代の住生活やまちづくりを担う子どもたちの判断能力や生きる力を育成。併せて、県民のリビングリテラシーを維持、向上させるため、住生活情報提供やワークショップ等の取組みを実施。



リビングリテラシー向上プログラム推進事業

取組 1. 樹幹形成

～ 巣や止まり木を支える幹となり、リビングリテラシーを向上させるための体制を整備 ～



- ①教育庁等関係部局との学習内容協議
- ②大学、高専及び研究機関等による住教育検討委員会の設置
- ③シンポジウム開催による指針等の周知

【H30事業】

「青森県住まい・住環境学習指針」の周知及び住教育の充実等を目的とした、リビングリテラシー向上シンポジウムの開催

取組 3. 止まり木プログラム

～ 巣立ち後もリビングリテラシーを維持 ～

- ①青森県の住生活に必要な基礎知識を網羅した県民向けリーフレット「(仮称)リビングリテラシー」の作成及び普及・啓発
- ②世代間で住生活の問題意識を共有し住環境の向上を考える多世代参加型研修講座・ワークショップ等の開催

【H30事業】

県民等向け住生活リーフレット「(仮称)リビングリテラシー」の作成



取組 2. 巣立ちプログラム

～ 巣立ちに必要なリビングリテラシーを向上 ～

- ①住生活に関する小・中学校・高校家庭科の住教育教材の作成
- ②技術・家庭科や総合的学習における出前授業（建築士等住生活関連分野の専門講師による学習機会の提供）

【H30事業】

- ①小、中学生向け住教育副読本、教材の作成及び授業における副読本等の活用に関する家庭科担当教員向け研修会の開催
- ③小学校～高校での「リビングリテラシー向上」出前授業の実施



【事業効果】

★青森県の未来を創る人財の育成

- ▶ 子どもたちが住生活の身近な課題を解決することで、思考力、洞察力を育み、地域の未来への展望や地元への愛着を増進

★豊かな住生活の実現

- ▶ 持ち家や新築住宅に偏らず、個々のライフスタイルに応じた多様な住生活を実現する知識や意識の醸成
- ▶ まちづくりの当事者意識形成、コミュニティ活動への参加拡大

★安全安心な住環境の形成

- ▶ 防災意識の向上による耐震改修の増大等防災・減災対策の促進
- ▶ 健康増進、省エネルギー推進に資する住宅等への関心拡大
- ▶ 既存住宅需要の喚起に伴う空き家増加の抑制

★中古住宅市場の活性化

- ▶ 住み替え需要の拡大に伴う中古住宅市場の活性化
- ▶ 住生活社会における賢い消費者の育成

